

るるぶ²

食べる、寝る、遊ぶ、学ぶ

大殿小学校 校長室だより
平成31年度 第1号 (4月17日)
校長 磯村 勇

タイムトラベル

昨年度に引き続き、不定期ですが校長室だよりを発行いたします。大殿小で感じる季節、学校行事や子どもたちの様子を中心に、お届けします。ご愛読のほど、よろしくお願いいたします。

さて、昨年度の話になりますが、3月に本校体育館において、タイムカプセルを開く会を行いました。当日は、卒業生や保護者、地域の方々を含めて総勢500人余りの方々が集まってくださいました。20年の時を経た絵や作文を手にしたときのたくさんの笑顔はとにかく素敵で、この場に巡り合えた偶然に感謝した次第です。

校長室には、当時のPTAからのメッセージと箱を開ける鍵が代々保管されており、「2019年3月19日に開けてください」と書いてありました。「20年先のことを、20年先の人に頼む」という行為は、一見手前勝手のように見えますが、20年後の未来に大殿小で生きている人々（つまり私たち）を信頼しているからこそそのメッセージです。このことを関係者にお伝えしたところ、二つ返事で、その信頼に応えることになったのです。

しかし、3月19日といえば平成30年度卒業式の前日です。さすがに卒業式の前日に体育館を使用するわけにいかず、メッセージに最も近い日曜日である3月17日にイベントを開くことになったわけです。5月10日までは、学校で保管しますと宣伝したところ、その後も何人の方が来校され、タイムカプセルの中に入れていた作品を探しておられました。期限まで、もう少し時間があります。お知り合いの方がおられましたら、どうぞお伝えください。



タイムトラベルを題材にした物語は、古今東西、数多く作られてきました。子ども向けのドラえもん、最近では「君の名は」というアニメもそうです。人々がタイムトラベルを題材にした物語を作るのは、「過去に戻ることはできない。未来を体験することもできない」という現実があるためでしょう。私は、これを、人間が生きていく上で受け入れなければいけないルールの一つではないかと思います。

人間は、このルールを受け入れているからこそ、今を精一杯がんばるという生き方をすることができます。そして、過去に戻れない代わりに、「思い出」や「反省」といった今の自分に役立つ考え方を産み出しました。未来を体験できない代わりに産み出した考え方が、「目標」「夢」「想像」といった概念です。これらは、過去や未来を今につなげて、今を充実させていくための知恵でもあるわけです。現在、学校では授業の前半に「めあて」を、終わりには「振り返り」の時間を設定するよう心がけています。授業におけるこの取組も、同じ知恵の延長線上にあるものかもしれません。

20年後の自分たちに、あるいは20年後の人々に向けて残してあった大殿小のタイムカプセルも、それぞれの今を充実させる知恵の結果だと思っています。このたび、改めて20年後に開く予定で、作文その他の品物をタイムカプセルに入れました。未来への想像は広がります。